

CAMPUS



RIKKYO NIIZA

— FEATURE 特集

キャリア教育

— INTERVIEW 校長インタビュー

「立教新座は“自分らしさ”と向き合える環境」

NEWS / No.91

May 2025



立教新座中学校・高等学校

生徒自ら、強い意志と目標を持って、自身の道を切り開く

立教新座の
キャリアとは

立教新座中学校・高等学校が考える『キャリア教育』とは、生徒が自ら進路を模索し、変化を続けるグローバル社会で活躍できる力を育むための土壌を築くことです。

INTERVIEW



教務部長
花岡 宏行

立教新座中学校・高等学校のキャリア教育は、中学からスタートし、高校では入学してすぐの時期から3年まで、自らの進路について考える機会を各学年で企画し、提供しています。本校は希望するほとんどの生徒が立教大学へ進学することができますが、そこでの学部選択を進路選択のゴールとするのではなく、付属校だからこそ幅広い選択肢があることを知ってもらいたいと考えています。例えば、大学生や社会人のOBを招いての講演会では、自身の進路を選択するきっかけや社会に出てからについて話していただいています。なかには、立教大学以外の大学へ進学した方にも来ていただいています。こういった、さまざまなキャリア教育プログラムを通して、今の学びが今後どのように社会と結びついていくのかを実感し、自分自身の進路を真剣に考

えてほしいと思います。

今後のキャリア教育の目指すべき方向の一つは、技術の進歩に合わせて臨機応変に新しい学びを取り入れることです。AIやデジタルモラルに関する教育を充実させることで、生徒たちが現代社会で必要とされるスキルを身につけることができます。

このように、生徒たちが自身の進路を幅広く考え、実現できるようサポートしていくことが、私たちが目指している真の「キャリア教育」です。

2024年度中2学年では、「企業訪問」を実施し、ご協力いただいた企業で職場のリアルに触れさせていただきました。事前・事後学習を行い、総合的なプログラムとして実施することで、単なる職業体験に留まらない、自身のキャリアを主体的に考える機会となりました。

Case. 2024年度 | 中学2年生が実施したキャリア教育プログラム

2024年度中2学年では、高校へのキャリア教育につながる第一歩として、中学生向けのキャリア教育を実施しました。

目的

自己理解を深め、
人との関わり方を考えます

自分の特徴や適性について理解し、職業だけではなく職業に関わる人達についても考えます。

さまざまな仕事を知り、
職業観を育みます

仕事に対する意識や働くことの意義などについて理解を深め、自身のキャリア形成を考えます。

1年間の活動の流れ

学期	内容
1 学期	キャリア教育についての説明
	映像視聴
	進路適性検査
2 学期	企業訪問 事前学習（キャリア講話 / 将来デザインを考える / グループ学習、訪問企業への質問作成）
	企業訪問 実施・お礼状の送付
3 学期	企業訪問プレゼンテーション
	卒業生による講演会

内容

1 学期

自己理解を深める・
仕事や仕事の適性について考える（導入）

キャリア教育の目的を説明した上で、生徒がさまざまな仕事への理解を深めるきっかけとして映像（「新プロジェクトX」「NHKミライのしごとく」等）を視聴しました。仕事だけではなく、その仕事に従事している人々についても考える機会を設けました。また、自身の特徴や適性について理解するための導入として進路適性検査を行い、その結果から、2学期の企業訪問先を選択する生徒もいました。

生徒の感想

「仕事とは、自分がやりたいというだけではなく、他者・社会からの目線で考え、役立つことであるべきだと感じた。仕事とは、やりがいがたくさんある反面、辛いこともあるのだと知った。」

2 学期

企業訪問及び事前事後学習

1学期の活動をもとに、キャリア講話と企業訪問を実施しました。キャリア講話では、キャリアプランニングや訪問先企業のリサーチ方法について説明を受けました。訪問先企業32社を選定し、生徒の希望に沿って訪問先を決定。企業への質問を作成するなど訪問に備えました。企業へは、2～7人のグループで訪問。仕事内容を伺うだけでなく、名刺交換や製品作りを体験するなど、実体験を通して“働く”ことへの理解を深めました。訪問後には、一人一人お礼状を作成し、各訪問企業に送付しました。



生徒の感想

「AI技術の発展など、時代の変化をみて、企業努力・工夫が必要だと感じた。社会人になってもニュースを読んだり、セミナーに参加したり、努力を続けていた。自分も好きなこと、やりたいことを見つけてそれを仕事にすることが大事だと感じた。」

3 学期

企業訪問の経験をグループでまとめ、発表する

各自で作成したスライドをグループごとにまとめ、クラスでプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションでは、ワークシートの中に他者評価項目を設け、聞く力を養うことを目指しました。生徒たちが学んだことを互いに共有し、フィードバックを受けることで、学びを深めることができました。



生徒の感想

「資料の見やすさ、発表の聞きやすさ、わかりやすさが大切だと感じた。他のグループの発表が参考になった。」

3 学期の
最後

3学期の最後には、生徒と近い年代の大学2年生を招き「卒業生による講演会」を実施。中高での勉強の大切さや大学での学びについて聞き、具体的なキャリアプランを考えるきっかけとなりました。「企業訪問」を通して描き始めた自身の将来の夢に向かうためには、中学3年生と高校でどのように過ごすのか。会場の生徒たちは考えを巡らせながら真剣に聞き入っていました。



WEBで
詳しく見る



生徒たちの総合的な感想

“経験”が大切であると思った。
外交官など世界を舞台とする職業に就きたいので、高校で留学をしたり、英語力を強化したり、いまからできること、日々の生活での学びを大切にしたい。

大学の
学部選びの
重要性を
知った。

今からどんなことでも
好奇心をもってとりくみ、
高校3年間に
好きなことを色々
試してみようと思った。

勉強や部活動などに
真剣に取り組んで、
将来「良かった」と思える
学校生活を送りたい。

OBの
熱意と行動力が
すばらしいと思った。
まだ将来の夢も
決まっていらないが、
まずは人間的に成長したい。

INTERVIEW

校長インタビュー



立教新座は「自分らしさ」と向き合える環境

2025年4月に就任し、これから立教新座中学校・高等学校で過ごす日々を、心から楽しみにしています。

これまで私は男子校・女子校の両方で教職に携わってきました。その経験から、男女別学には「自分の興味あることに集中しやすい」という良さがあると実感しています。さらに立教新座には充実の施設、多彩なクラブ活動、立教大学との一貫連携教育など、自分らしさを発現したり、深めたりできる環境が整っています。生徒の皆さんにはこれらの豊富な選択肢を生かし、ぜひ「やってみたい」と思えることを見つけ、積極的に取り組んでほしいですね。

私は20代から30代にかけての約10年間、夏休みを利用して障がい者福祉施設でボランティア活動を行っていました。そこでの多様な出会いや体験は、世の中や自分自身のことを深く理解するきっかけになったと感じています。社会は学びであふれており、立教新座では教室を飛び出して学ぶ機会も豊富です。この素晴らしい学習環境を、先生方と一緒に今後も発展させていけたらと考えています。

生徒に「ここが自分の居場所であり飛躍の場」と感じてもらえる教育を展開したい

就任してまだ1カ月ですが、立教新座はとにかく「自由」であるという印象です。「自由」とは、自分の中で行動をコントロールしなければ成り立ちませんから、背景には、「生徒たちの自律への期待」と「生徒と教員との深い信頼関係」とがあるのでしょう。

中学校・高等学校は人としてのあり方や、価値観、倫理観といった人間力を形成する時期でもあります。変化の激しい現在、そして今まで以上に何が起こるか予想のつかないこれからの時代を生き抜くために必要な力、それは、失敗しても粘り強くチャレンジする力、他者と協力し物事を成し遂げていく力、責任感、そして優しさといった「人間力」です。立教新座の受験にとらわれない広く深い学び、そして、自由の中で生徒自身が自分の「やってみたい」を見つけ熱中できる環境は、こうした「人間力」を育てる絶好の場だと感じています。

朝、校舎入口の前に立つと「おはようございます」という元気な声が響きます。その清々しい挨拶には、生徒たちの誠実さや快活さがあふれています。立教新座の素晴らしい文化や伝統を大切に、生徒に「居場所」と、未来を切り開いていく力を与えられるよう日々邁進していきます。

(2025年4月取材)

・ PROFILE



塩見 牧雄

Makio Shiomi

2021年 4月
三輪田学園中学校・高等学校 校長就任

2025年 4月
立教新座中学校・高等学校 校長就任

公式Webサイト・SNSについて

本誌の内容は、本校WebサイトやSNSでもご覧いただけます。

また、WebサイトやSNSでは、本校での出来事など、日々の学校生活の様子が垣間見られるような情報や写真を発信しています。ぜひ、ご覧ください。

Webサイト



Facebook



Instagram



LINE



note

